6　本時の実際（6／13）

（1）ねらい

○小数の除法について，小数点の位置を被除数と関連させて説明したり，計算したりすることを通して，あまりの位取りを考えている。　(数学的な考え方)

○あまりのある除法計算をすることができる。　(表現・処理)

（2）学習過程

邂	穡	鬮	学習活動と予想される児童の反応	○学習への支援	評価
つかむ	全	5	1 問題を把握し，立式する。 2.5ℓのジュースを,0.7ℓ入りの水とうに入れていきます。 何個の水とうをいっぱいにできますか。（また，何ℓあまりますか。） ・3個から4個の水筒になりそう。 ・割り切れない場合はどうしよう。	○意欲を高めるために，センターの先生からの挑戦状として問題を提示する。数直線図を用いて，立式の手がかりや見積もりの手がかりとする。 ○答えの見通しや戸惑いを発言することで，割り切れないからあまりが生じること，本時の課題があまりの求め方になることを焦点化する。	
	全	2	2 本時の課題を確認する。 あまりは，どのように表したらよいのか。	○ℓ図，式，筆算などの方法選択により，個々の考えが表現しやすくするとともに，あまりの大きさの意味付けを深められるようにする。 ○A,B,C で解決した児童には，検算を勧める。	
とりくむ	個	7	3 自力解決し，自分の考えをもつ。 A　　3　　3 0．7 ）2．5　　7）2　5 2　1　→　2　1 0　4　←　　4 B　2.5÷0.7=25÷7(0.1ℓをもとに) ＝3あまり4 0.1ℓが4個分なので0.4ℓあまる。 C 途中までBと同じ3あまり4 10倍して計算したから4を1／10 D　2.5ℓ分の目盛を等分　3ℓ図 25÷7＝3　あまり4目盛=0.4ℓ E　Aに取り組み割り進んでしまう。 F　A，Bであまりを4とする。	○Aの児童には，あまりが4でない理由や21の表している数について付箋で問いかける。 ○Eの児童には,題意を確かめるとともに,一の位までの商を求めたときの小数÷整数を想起させる。 ○あまりを4とした児童には,意味ある誤答となるようにその理由付けを促す。 被除数に関連させ,あまりの位取りをして計算のしかたを考えている。(観察・ノート) ○他者説明によって話し合いを進め，それぞれの数値が示す単位を解釈して考えを比べ合いできるようにする。	
ふかめる	全	16	4 計算の仕方について考えを出し合う。 F　割られる数の小数点が10倍にして移動したので，その位置にそろえてあまりの小数点を打つ。 A→B→→D→検算	○図や検算を関連づけて，筆算であまりが0．4となる理由，商が3の意味に着目するための補助発問をＴＶ会議システムから問いかける。 ○話し合いからキーワード（0．1の個数をもとにした計算＝整数の計算であること）を絞り，板書していく。それを用いて，聞き学んだことをペア対話で情報交換する。	
まとめる	全	2	5 話し合ったことをもとに本時の学習内容をまとめる。 小数のわり算のあまりは，わられる数のもとの小数点にそろえて小数点をうつ。	○TV 会議システムの先生から，称揚やまとめの補助をもらう。その後，「挑戦状Ⅱ」としてチェック問題を与える。あまりのしくみ，文章題，検算とあまり，計算練習の4種の定着問題を用意する。 あまりのある場合の小数の除法計算ができる。(観察・プリント)	
ふりかえる	個	10	6 定着問題に取り組む。	○チェック問題につまずきにあった児童に類似問題で補充する。	
	個	3	7 振り返りをする。 ・あまりの小数点の位置には，計算の意味があることがわかった。 ・小数点に気をつけて計算したい。	○習得した知恵のふり返りができるように，あまりについて新しく分かったことを視点にする。	